

コリントの信徒への手紙二

コリントの信徒への手紙二は、痛みを伴う時期の後に書かれた深く個人的な訴えで、パウロの奉仕を弁明し、和解を求め、エルサレムへの献金を整え、使徒としての権威をめぐる対抗者たちの主張に向き合います。



解釈にもとづく再構成。この出会いは、手紙から推測される再構成であり、目撃された場面ではありません。

年代・確度：推定される

紀元55～56年頃

マケドニアは地域であって、確実に名指しされた執筆都市ではありません。別の主要な年代体系は同じマケドニアの背景を紀元57年に置きます。

場所・確度：推定される

マケドニア

マケドニアは地域であって、確実に名指しされた執筆都市ではありません。別の主要な年代体系は同じマケドニアの背景を紀元57年に置きます。

前後の出来事

- ① 紀元54／55年頃 パウロはコリントの信徒への手紙一を書く（アポロはエフェソでパウロと再び共にいたと見られる、一コリント 16章12節）。パウロ／アポロ／ケファをめぐるコリントの信徒の分裂に答え、植える者と水を注ぐ者の働きに対して、成長をもたらすのは神だという対比を示す。
エフェソ・本文で確かめられる
- ② 紀元55／56年頃 パウロはコリントを苦悩に満ちた形で訪れ、厳しい手紙（現存しない）を送る。
エフェソ→コリント・推定される
- ③ 紀元55／56年頃 銀細工師たちがアルテミスをめぐって暴動を起こし、パウロはエフェソを去ってマケドニアへ向かう。
エフェソ・本文で確かめられる
- ④ 紀元55／56年頃 トロアスで宣教の扉が開かれ、パウロはマケドニアへ。テトスが朗報をもたらし、コリントの信徒への手紙二を書く――押しかけた競争相手を「偽使徒」、皮肉を込めて「大使徒たち」と呼んで自らの務めを弁明し、弱さを誇る。
アレクサンドリア・トロアス→マケドニア・本文で確かめられる
- ⑤ 紀元55／56年頃 パウロはマケドニア人を励まし、献金を組織し、イリリコンに至るまで宣教する。
マケドニア→イリリコン・推定される
- ⑥ 紀元56／57年頃 パウロはギリシアに3か月滞在してローマの信徒への手紙を書き、陰謀のため帰路を変更する。
コリント→ケンクレアイ・本文で確かめられる

本文から確かめられること

本文で確かめられる

コリントの信徒への手紙二は、痛みを伴う時期の後に書かれた深く個人的な訴えで、パウロの奉仕を弁明し、和解を求め、エルサレムへの献金を整え、使徒としての権威をめぐる対抗者たちの主張に向き合います。

この手紙は、パウロとの関係に痛みを伴う時期を経たコリントの教会と、アカイア全域の信徒に宛てられています。

主な再構成

パウロ書簡の年表は、コリントの信徒への手紙二をエフェソを去った後、後のギリシア滞在の前のマケドニア、西暦55～56年ごろに置きます。

マケドニアは地域であって、確実に名指しされた執筆都市ではありません。別の主要な年代体系は同じマケドニアの背景を紀元57年に置きます。

考える別の読み方

正典として伝わる形を一つにまとめた手紙と読む研究者もいれば、コリントとの往復書簡の複数の段階が保存されていると考える研究者もいます。

10分で紹介するための流れ

1. コリントの信徒への手紙二は、痛みを伴う時期の後に書かれた深く個人的な訴えで、パウロの奉仕を弁明し、和解を求め、エルサレムへの献金を整え、使徒としての権威をめぐる対抗者たちの主張に向き合います。
2. コリントの信徒への手紙二はコリントの信徒への手紙一と痛みを伴う往復の後に続き、ローマの信徒への手紙と献金を携えたエルサレムへの旅に先行します。
3. パウロ書簡の年表は、コリントの信徒への手紙二をエフェソを去った後、後のギリシア滞在の前のマケドニア、西暦55～56年ごろに置きます。
4. 正典として伝わる形を一つにまとめた手紙と読む研究者もいれば、コリントとの往復書簡の複数の段階が保存されていると考える研究者もいます。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7～28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

資料

Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997). — 第23章「コリントの信徒への手紙二」：「メッセージの全体的分析」

この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

Jerome Murphy-O'Connor, Paul: A Critical Life (Oxford University Press, 1996). — 第1章「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」

この箇所は、ここでの結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。

<https://paulineletters.com/ja/explore/2-corinthians>

改訂 v1.2.0-evidence.20260902.4 · CC BY 4.0 · PaulineLetters.com

